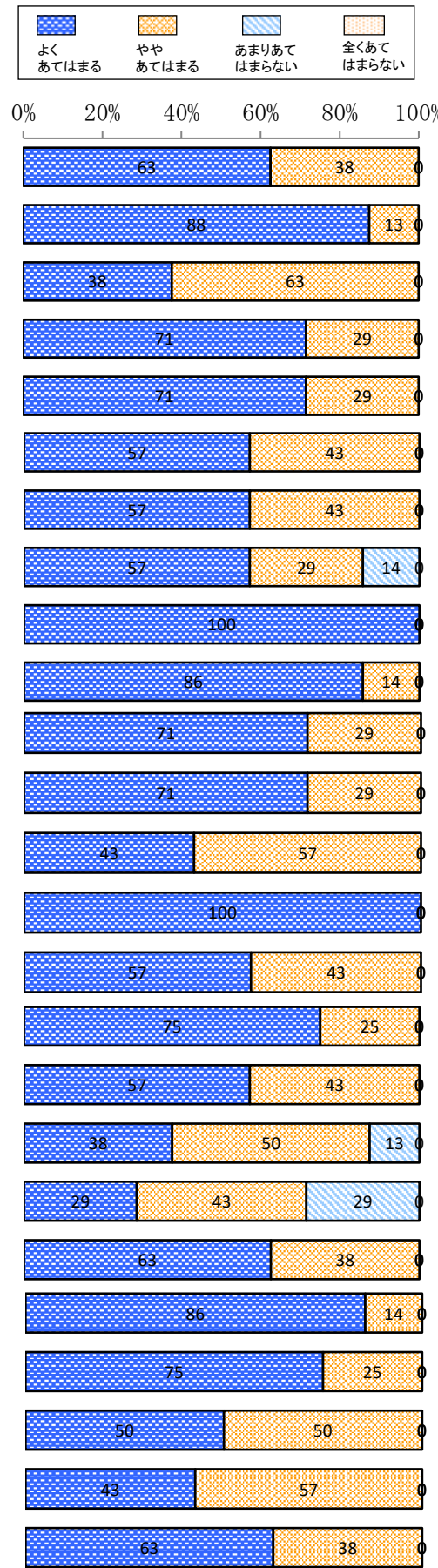


		評価項目	評価結果				
			A	B	C	D	
学校全体の様子	1	教育目標・方針	児童・生徒や保護者等と共有できるように学校の教育目標を示し、方針を説明している。	5	3	0	0
	2	児童・生徒の様子	児童・生徒は、明るく素直で、生き生きとした楽しい学校生活を送っている。	7	1	0	0
	3	基本的な生活習慣	児童・生徒の服装や通学態度、挨拶など基本的な生活習慣がしっかりしている。	3	5	0	0
	4	児童・生徒理解	児童・生徒の良さや努力しているところを見つけ、励まし、理解しながら一人一人の能力を伸ばすように努めている。	5	2	0	0
	5	健康・安全・安心	児童・生徒の健康や安全（確保・対策）に配慮するとともに、主体的に行動できる防災教育を充実している。	5	2	0	0
学力向上の取組	6	分かる授業	楽しく分かりやすい授業が実践されている。	4	3	0	0
	7	個に応じた指導	習熟度別学習等、児童・生徒一人一人の理解の程度に応じた学習指導が行われている。	4	3	0	0
	8	学習習慣	放課後の補充指導等を行うとともに、家庭での学習課題を提示する等、学習習慣の定着を図る工夫をしている。	4	2	1	0
	9	情報教育	タブレットPCなど、ICT機器を活用した教育を推進しながら、情報活用能力の育成に向けて取り組んでいる。	8	0	0	0
	10	学校図書館の活用	読書と学習に役立つ学校図書館として活用されている。	6	1	0	0
社会性・人間性の育成	11	人権教育	自他を大切にし、偏見や差別を許さない豊かな人権感覚を育てる教育を行っている。	5	2	0	0
	12	道徳教育	生命を大切にする気持ちや他人を思いやる心、善悪の判断や規範意識を育てる等、道徳性をはぐむ教育を行っている。	5	2	0	0
	13	教育相談	教育相談を充実し、いじめや不登校を防止する等児童・生徒一人一人の居場所がある学校づくりに努めている。	3	4	0	0
	14	人間関係づくり	学校行事等の教育活動を工夫し、体験活動を充実させながら望ましい人間関係が築けるよう取り組んでいる。	7	0	0	0
	15	自治的な活動	学級活動や児童会・生徒会活動等で、児童・生徒が自発的・自治的に活動できるように工夫しながら指導している。	4	3	0	0
保護者・地域との連携	16	情報発信	学校便りや学年便り、学校ホームページ等で、保護者や地域の方に、学校の教育活動の様子を分かりやすく知らせている。	6	2	0	0
	17	相談への対応	児童・生徒や保護者からの連絡や相談を丁寧に受け止め、適切な対応をしている。	4	3	0	0
	18	学校への参加	学校行事等では、保護者や地域の方が参加しやすいように工夫している。	3	4	1	0
	19	地域との連携	地域の行事などに協力的で、連携を図っている。	2	3	2	0
	20	意見の反映	保護者や地域から寄せられた意見や要望を受け止め、学校運営と教育活動の改善に努めている。	5	3	0	0
各学校の特色ある教育	21	体力づくり	児童の体力作りに積極的に取り組んでいる。	6	1	0	0
	22	健康の増進	手洗い・うがいの徹底、食育の推進など児童の健康保持・増進に努めている。	6	2	0	0
	23	体験活動	体験活動を積極的に取り入れている。	4	4	0	0
	24	人材活用	地域の人材や専門家など、外部の人材を授業に生かしている。	3	4	0	0
	25	学習環境	教室は換気・消毒をし、安全で衛生的な学習環境の整備に努めている。	5	3	0	0

(人数)



(%)

評価委員会からのコメント

【講師による講評・助言より】
 ○保護者の回答率が高い。初めてのオンライン回答でこれだけの回答率を得られていることから、保護者のICTスキルが向上していることと、学校への意識を高く持たれていることが分かる。
 ○学力は教員の努力だけで上がるものではない。子ども自身の努力や家庭の協力が必要であり、それらが得られるような仕組み作りがあるとよい。

○設問4, 6, 13における児童の評価が高くなっている。これらの設問は学校での子どもと教職員とのかかわりに関する項目ととらえることができる。子どもたちが先生や職員を信頼していることの表れである。
 ○設問14, 15で保護者からの高い評価を得られており、設問14は児童の評価も高い。七峡小は学級・学年はもとより異学年も仲が良く「家族のような学校」であると言える。このよさを生かし続けてほしい。

○アンケートの分析では肯定的評価の割合だけでなく、「あてはまらない」と回答している実数や割合を見ることが必要である。設問7, 8, 9, 11の保護者の評価は例年低く、取組が伝わりにくいのは継続的な課題である。すぐには変わらないが、根気強く取り組んでいってほしい。
 ○設問2で「まったくあてはまらない」と回答した児童がいるという事実を目を向けなければならない。割合にして2%であるが、この項目は「あてはまらない」回答を0にしたい項目であり、1人であってもどう救うことができるかという態度が学校には求められる。

○自己分析で触れられていた教職員と児童・保護者の回答傾向の乖離であるが、乖離を埋めるために新しいことに取り組んだり、他校の事例を役立てたりといったことに積極的にチャレンジしてほしい。
 ○依然コロナ禍であり、通常の活動は厳しい。従来と同じようにできない状況は続くと思われるので、今まで通りから脱却してさらに一歩、二歩先へ歩みだすような学校の取り組み姿勢を期待する。

【委員から】
 ○子どもは「学校が楽しい」「友達と、先生と過ごすことが面白い」と話していますので様々な学校の取組がしっかりと考えられた素晴らしいものと理解しています。保護者の参観がなかなか難しい日々でありますので、臨場感のあるオンライン参観が実現できるとよいと思います。
 ○コロナ禍において学校へあまり行く機会がなく評価しづらい部分が多くあります。「よくわからない」が多くすみません。
 ○設問19については町会側もほとんどの行事が見送られ物足りなく感じております。今年こそは収束に向けて良い方向へ向かうことをお祈り申し上げます。
 ○学校の様子を見に行く機会が少なくあいまいな評価になってしまいましたが、少ない機会の中でもコロナ禍で先生方が新しい試みでZOOMでの評議員会を開いてくださったりいろいろ工夫されているご苦労が伝わってきます。
 ○コロナ禍の中先生方が試行錯誤しながらも努力して下さっているのがわかります。今後どうか自信をもって思いついてやり方を実践されてください。
 ○七峡小の児童はとても子どもらしく楽しそうな登下校の姿を見かけます。先生方をはじめ、学校の雰囲気もとてもよく感じられます。コロナ禍で昨年からはタブレットの活用が増えましたが、今後もオンライン授業を行う中で教科書だけでなく音楽、体育、図工、コミュニケーション等の授業が増えることにより楽しく参加できるのではないかと思います。